

今月の聖句

『ひとりよりもふたりが良い。
共に労苦すれば、その報いは良い。』
(コヘレトの言葉 第4章9節)

◎10月の予定

1日(月)～4日(木) 教科テスト(中)
4日(木) 校内研修会
9日(火)・10日(水)
小学校入学願書受付①

11日(木) 運動会予行

13日(土) 運動会

15日(月) 運動会代休(予備日①)

18日(木) 教務委員会

19日(金) 小学校自宅学習日

19日(金)・20日(土)

小学校入学検査①

25日(木) 教職員協議会

26日(金) 評議員会・理事会

31日(水) 秋の遠足(小)

31日(水)～11月2日(金) 修学旅行(中3)

◎11月の予定

1日(木) 秋の遠足(中)

1日(木)～2日(金) 修学旅行(小6)

5日(月)・6日(火)

内部進学者願書受付

6日(火)～8日(木)

転入体験学習②(小・中)



起工式 8月28日(火)



創立記念礼拝・コンサート 9月19日(水)



〈今月の行事から〉

☆運動会

子ども達が「元氣ーやる気!!本気!!!」で、
力いっぱい競技や演技に取り組みます。小学
一年生から中学三年生までの全校リレーは、
ステパノっ子の繋がりを強く感じることが
できる競技の一つです。

たくさんの方の応援でどうぞ子ども達を盛り
上げてください。未就学児や保護者参加のプ
ログラムもありますので、是非ご参加くださ
い。

☆秋の遠足

小学校は、十月三十一日(水)に実施され
ます。一、二年生は、油壺マリンパークで海
の生き物とのふれあい、三、五年生は、宮ヶ
瀬ダムの見学をし、観光放流も体験します。
中学校は十一月一日(木)に東京方面へ出
かけます。朝日新聞社や聖路加国際病院のチ
ャペルなどを見学します。

☆修学旅行

小学校は、一泊二日で名古屋・犬山方面に
でかけます。犬山城を見学したり、名古屋名
物を食べたり、たくさん思い出になるでし
ょう。

中学校は広島・姫路方面へ
でかけます。平和記念公園を
巡り、戦争の恐ろしさや平和
の大切さを学びます。



E Q

学園長 小川 正 夫

数値で人を評価するのは難しいことですが知識を記憶する力、情報を整理する力などで人を評価し、時には人格に結び付けたりすることがあります。I Q「Intelligence Quotient」(知能指数)が高い人、偏差値が高い人が優れた人として社会的に高い地位に着き、経済的に恵まれた生活を営んでいる場合も確かにあります。必ずしも全員そうなのとは言えませんが、凡そ二〇%位という統計を見たことがあります。

今日では、A I「Artificial Intelligence」(人工知能)が人の能力を悠に超えていき、情報処理能力は人間が休むこともなく三〇年間もかかるような計算も瞬時に纏めてしまいますし、人間に代わって、人間より効率的にしかも確実に物事を処理する能力を発揮します。近い将来、身の回りのかなりのものがA Iでロボット化することは間違いありません。子ども達が大人になる頃には社会情勢が急速に変わっていることも当然予想されます。

しかし、人がいなくなるといふことはありません。変わることをない大切なことは、E Q「Emotional Intelligence Quotient」(情感指数)と言えるかと思えます。心の知能指数という人もいます。平和に生きていく知恵と表現したほうが解り易いかもしれません。心を豊かに育むことが大切だという言い方もあります。

こう考えてはどうでしょう。

人には考える力(知性)、感じとる力(感性)があるのですが、努力してこのバランスを上手に学習して身に着けることが大切です。そのための基本は五つあげられます。

① 自分自身が抱いている心の動き、喜びや楽しさ、怒りや憎しみ、悲しさといった情動を認識し、自覚し、理解できる、言い換えれば自分を客観的に捉える知恵です。

② 自分自身が感じとる怒りや憎しみ、悲しみや苦しみ、欲望や嫉妬の感情を、自分でコントロールできる知恵を持ち、不快な感情を取り除き、自分の感情の制御ができる。

③ 自分自身が自分なりの目標や希望を見つけ出し、将来を見据えて努力するありのままの自分を活かす。例えば六〇%の力があればその六〇%の力を一〇〇%確り活かすこと。自己効力感を持ち、希望を胸に、自分自身を一步前に出す動機を作り出す知恵を養うことが大切です。努力すれば必ず望みが叶えられるとは言いませんが、努力しなければ望みが叶うことはいないといふことは確かです。

④ 相手の人、周りの人の感情を感じ取り、受けとめる力を持ち、自分の中にある衝動と抑制、欲望と自制の心の動きを確かめ、他人の気持ちを自分の気持ちに置き換えて考えられること。喜び合い、悲しみを分かち合える知恵を身に着けることが大事です。

⑤ 相手の立場に立って、快、不快の心の動きを感じ取る、所謂、共感的理解ができる。

気づかずに人を傷つけてはいないかといった心遣いができる知恵を育むことなどです。

ますます複雑な社会構造の中、人間関係が希薄にならないように、心遣いができる様に調整する知恵を身に着けることが大切です。

「次は大磯駅、優しい心を育む 聖ステパノ学園前でございます」と学園の前を通るバスの車内放送が聞こえますが、聖ステパノ学園の目指すところの一つでもあります。

出合う様々な出来事、言葉は受けとめかたで意味合いが異なることも在ります。優しさという言葉は、軟弱を意味するようにも聞こえますが、そうではありません。内に秘めた心の強さを意味することも在ります。優しいという漢字は、悩みや悲しみ、憂いのある者の傍らに寄り添っている人という組み合わせで出来ています。同時に、優れているという意味にもなります。

「愛する者の為に命を捨てる、これより大いなる愛はない」と聖書にありますが、かなり強い意志が内在している言葉です。

幸せという文字は逆さまにしても、幸せという文字で、不幸にはなりません。辛いという文字の上に十字架の十を載せると、幸せという文字になります。すべての経験は、建設的に受け止めれば後になって必ず役に立つといふことでもあります。人と人との出会いの間で人間が作られるといいますが本当です。慎みという文字を見ると、真心という文字にも見えますね。

最後まで

教諭 田中 圭史

二学期は一年でも気候がよく、学習や課外活動に最適な時期です。学園ではさまざまな行事が予定され、今は運動会の準備が始まっています。私たちも準備に専心し、子どもたちが良い活動ができるようにと願っています。が、いつも準備が順調というわけではありません。イメージ通りにいかず理想ほどには自分自身の技術が追いつかなかったり、意思疎通がうまくいかなかったり……。それでも本番は待つてくれませんか、そこに向けて頑張るしかありません。楽しく準備する日もあれば、大変な時もあります。そしてみんなで乗り越えて、本番を迎える。そのような積み重ねが子どもたちの心に蓄えられていきます。

良い成果は私たちに達成感や喜びをもたらしてくれています。それまでの過程でどのように取り組んだかも大きく影響します。精いっぱい取り組んだ記憶は、心に蓄えられ良い経験となります。しかし、手を抜いている部分があるとすれば、残念ながらそれも記憶となつて積み重なっていきます。もしかしたら他人は気づかないかもしれませんが、精いっぱいしたかどうか、誠心誠意取り組みただかどうかは、本人が知っています。私たちは言い訳することは容易ですが、すべきことを遂行することは容易ではありません。

子どもたちに全力を出す喜び、誠心誠意に

取り組む価値、人のために自分のもてる時間と労力を惜しまず差し出す心を伝えていきたいと思っています。そのためにも自分自身がそこに立っているかどうか吟味しなければなりません。

一人ひとり置かれているところは異なっている、でも、それぞれの場所で全力を出すことが大切です。力を尽くすからこそ今まで見えていなかったものが見える、気づかなかったものに気づいていきます。それが個人の成長につながります。これは人と比較して安住していたり、萎縮してしまっていたりすると気づきません。また、到達点が決まっていると、力を尽くすことが陰に隠れてしまう危険もあります。子どもたちが周囲との調和の中で自分自身を最大限に表現できるように、心が解放されてほしいと願っています。

ご存知の方も多いかと思いますが、十八世紀にジョン・ウェスレーというイングリッド国教会の司祭がいます。彼は説教者としても有名で、後のメソジスト派の流れをつくった人物です。彼の言葉に次のようなものがあります。

『あなたができる良きことをせよ。

あなたができるすべての方法で

あなたができるすべての魂のために

あなたができるすべての場所で

あなたができるすべての時間を費やして

あなたのできる熱意のすべてを傾けて
できるだけ長く。』

この言葉を聞いたとき、私が仕事に向かう姿勢を問われます。怠けたい心はいつも潜んでいます。終わりが見えているときほど、誘惑が大きいものです。うまくいってもいかなくても終わりののだから、自分でこの程度でよいと合格ラインを下げてしまったとかないでしようか？しかし、逆に、辛くて大変な状況だからこそ終わりがあつて救われる、ということもあります。いろいろな場面で『最後』を迎える私たちの状況はさまざまです。物事には必ず終わりがあり、それは神様が区切りを備えて下さっているという恵みだと思っています。

先の言葉からいろいろと問いかけられます。私は最善を尽くしているのだろうか。そこそこ良いことをしていると最善を求めなくなっているのか。あらゆる方法を試しているのだろうか。分け隔てなくすべての人に公正であるのか。すべての魂と言っても、事情があればやむを得ない場合もあると言っていないか。いろいろな言い訳をして、やらない理由を熱心に探していないか、等々。

物事を最後まで、丁寧に誠実にやり遂げる心の力を養いたいと思います。それが周りへの励みにもなります。

高い理想の前に全く及ばないところばかりですが、それでも目指すところを心に抱いていきたいと思っています。最後が見えていても手を抜かず、誠意をもって事に当たることを学び続けていきたいと思っています。

人道

養護教諭

田島 恵



昨今、ボランティア活動に注目が集まっているようです。おそらく、山口県で行方不明になった幼児を救出した男性の影響でしょう。その男性、尾畠さんの言葉です。「いただいた恩をお返しするのは当たり前。それが人の仁義です。どのような形で恩を返そうかと考えたとき、第二の人生をボランティア活動にさげようと決意しました」

ヨーロッパのイタリア北部ロンバルディア地方ソルフェリーノを中心に、イタリアを統一するための戦闘、〈ソルフェリーノの戦い〉が起こりました。そこに〈アンリー・デュナン〉というスイス人の青年が出てくわします。デュナンは戦争の悲惨さを間近に見て知り、どの兵士も区別せずに助けようとする町の人々の姿を目にします。そして気づいたので、「傷ついた人々はもはや兵隊ではなく、一人の人間だ」と。これが後に、国際的ボランティア団体、〈赤十字〉の起源となります。また、この気付きは赤十字の重要な理念を生み出します。それは、〈人道〉です。このデュナンの考えに四人のスイス人が賛同し、〈負傷軍人救護国際常置委員会〉を設立します。彼らは〈民間の救護組織〉と〈国際的な約束〉が必要だと考え、様々に訴えていきました。その結果、六ヶ国の政府代表が集まり、ジュネーブ条約の締結を果たします。

紆余曲折。色々な困難を乗り越えて設立された赤十字は、現在七つの原則をもとにしています。

人道…生命と健康を守り、人間としての尊厳を確保する。

公平…人種、宗教、思想などを差別せず、緊急度の高い人々から対応する。

中立…全ての人から信頼を受けて活動するために、いずれの側にも加わらない。
独立…国の法律に従いつつ、自主性を保持する。

奉仕…苦痛にあえぐ人を見たら、自ら手を差し伸べ、無償で活動する。

単一…ひとつの国に一社のみにする。

世界性…国籍を問わず負傷兵を救護する団体として始まり、誕生した時から切り離せない考えです。

このような理念のもと赤十字は活動しており、様々な人々が影響を受けています。平成元年より、日本赤十字社の名誉総裁に就任された皇后陛下は二十代の頃に、赤十字活動に触れたことがあるそうです。「福祉に関する多くの人々との出会いに導いてくれたように思います」と、御言葉を残されています。

何とはなしに、赤十字のボランティア活動に参加するようになり、赤十字の七原則に触れあえたことで影響を受けた一人が私です。どの思想に染まらず、否定もしない。対立せずに、自分らしさを保つ。見返りは求めない。地位や名誉に関係なく、緊急性の高い人から

順に、目の前で苦しんでいる人々に手を差し伸べる。それらは全て、ただ、目の前にある消えかけそうな命を守りたい、という思いから生み出された理念だ、と私は解釈しています。小さな町の人々の行いは、全世界に広まっています。適切な言葉が見つからず、この気持ちをどのように表現したら良いのかわかりませんが、私の心に何かを生み出したように感じます。

楽は苦の種 苦は楽の種、という言葉もありますが、楽しい事と苦しい事は必ずあります。自分にとって楽しい事が、誰かの苦しみを手を差し伸べることで、自分にとっての苦しい事が、誰かの苦しみに手を差し伸べられないこと。自分ではなく、苦しんでいる人々を一番に思い、行動することは簡単なことではありません。経験や知識から、このようにすれば間違いない、という考えを持たれる方は大勢います。しかし、それは自分のための行いです。今目の前にいる人々を無視しています。そうではなく、目の前の、今を生きている人々を思い、考えて行動に移せる人でありたいと思うとともに、子どもたちにもそういった思いが少しでも芽生えてもらえたら、この世が少し優しくなれるように思います。そんな私から最後に、尾畠さんの好きな言葉を、皆さんにご紹介させていただきます。

「かけた情けは水に流せ。
受けた恩は石に刻め。」

陶芸部の活動について

陶芸部顧問 宮本 光春

平成二四年五月から陶芸部の活動を支援させて頂いておりますが、初めての寄稿ですので私が陶芸部の生徒達と時間を共にすることになった経緯について、自己紹介を兼ね触れさせて頂きます。きっかけは私がTOTOT茅ヶ崎工場で退職時に在籍していた職場とステパノ学園との絆にあります。

職場はメセナを目的とした組織（ドロノワ倶楽部）で、陶芸・磁器クラフト・上絵付けの講座を設け、月に延べ千人近い社外の方々にも創作活動を楽しんで頂いております。そこに平成一九年頃だったと思いますが、ステパノ学園の生徒に校外学習として陶芸を体験させられないかとのお話が寄せられました。

初心者六〇名の指導にはインストラクターの手配含め種々検討が必要でしたが、倶楽部の休講日を利用することで対応可能と判断できましたので、学園のご意向に沿い、中学生を対象に陶芸に向き合って頂く機会が実現しました。

毎年、真夏に企画され、茅ヶ崎駅から徒歩で移動される生徒のため、工房をギンギンに冷やして準備したことを思い出します。

以降、双方で年一度の行事として組み入れてきましたが、平成二四年十月、倶楽部は諸般の事情から二〇年に及ぶ活動を閉じることになりました。当然学園との交流も絶えるこ

とになりますので、会社から閉鎖方針が提示された時点で、学園の窓口であられた小澤先生にその旨お伝えしました。その時の先生の言葉が今の活動につながるようになります。「使える器を自分の手で作る陶芸は生徒にとって貴重な体験になっていると感じている。ドロノワがだめなら学園で取り組めないか検討したい。」そうおっしゃいました。

何か月が経て、先生から「近々アトリエに窯が設置できる運びとなり、陶芸部立ち上げの準備が整った。活動のスタートに当たり、是非作陶指導の面で協力してほしい。」と私個人にお話しを頂きました。

校外学習で生徒と接し、その意義を感じていたこと、また陶舎で不登校の子供達のサポートにも取り組んでおり、陶芸を通じて会話を重ねながら個々人の心の有り様に触れてきた経験も部活動での拠りどころとなるのでは、そんな思いもあって要請を受諾しました。

絆のリレーで始まった陶芸部は、現在七年目の活動を迎えております。

習い事は基本が大事とよく言われますが、陶芸は「特に」が付加される部類に入ると私は思っています。

ロクロに粘土を載せ、両手の指で成形していきます。指先の力がどのように土に伝わり、土がどう反応するか、作りの基本を繰り返し、ことで力加減が感覚的に身に付いてきますが、思い描いた形に仕上げるには相当な時間を要します。

学園の週一回、一時間半程の活動の中で、この基本習得にどのように向き合うべきか念頭に置きながら今に至っておりますが、未だはつきりとした答えを見出せておりません。

ただ、基本重視という点では重要ポイント以外は二の次にしているのが実状です。何よりも生徒の作陶意欲・興味の持続を優先して取り組んでいます。

アトリエでは生徒が作業台に着き作陶が始まると、ほぼ全員から助言を求める声が上がります。訴え方に違いはあれ、作品の出来栄を求める声であり、意欲の表れと思いきや回りますが、いかんせん一斉に上がる要求には等しくは対応できません。もどかしさを感じますが、周囲に注意を払うと「次は私ね」などと言葉の掛け合いが耳に入ります。習いの場として理解を深めてくれているように思います。

先に、部活のあるべき姿について結論に達していないと記しましたが、これまでの体験から、勉学の緊張が解けた生徒の自分探しの課外活動として「自分もできる!」「できる事が増えた!」その喜びを感じてもらうこと、部活動の目指すところの輪郭としてそう捉えています。

思いのままに綴りましたが、教育に関してはいくつもの素人の身ですので、今後も顧問の難波先生、金阿彌先生のご指導を仰ぎながら取り組んでまいります。

よろしく願いいたします。

2018 ステパノまつり

くあつくなれ

もりあがれ

心をかさねろ

ステパノまつりく



【小学校】九月十一日は、ステパノまつりでした。お天気にも恵まれて、たくさんのお客様と楽しい交流がありました。

小一 Z・S

ぼくは、ステパノまつりで、かきごおりがおいしかったです。それは、ぼくが好きなあじだったからです。スタンブがおせてよかったです。



小一 K・F

わたしは、ステパノまつりで、ふれあいわんわんがたのしかったです。それは、わんちゃんにさわれたからです。

小二 R・H

きのうは、ステパノまつりでした。いちばんすきなコーナーは、てつどうでした。お兄さんが、えきでながれる音をピアノで、ひいてくれてじょうずでした。うれしかったです。あと、プラレールをはしらせました。たのし

かったです。大きくなったらまたてつどうコーナーをやりたいです。

小三 A・I

今日、初めてのステパノまつりがありました。ワクワクドキドキでした。さいしよは、手作りのぼうしをかぶって、チラシくぼりをしました。あつい中大へんでした。おかあさんと、中学校の校しやに行つて、まず、げきを見ました。つぎに、森のカフェに行つて、おばけきつきに行つて、さとうの店、わたあめを食べて、てんじスペースに行つて、ラーメンを食べて、すると、とつぜん雨がふりました。さいしよは、なにかと思いました。雨やどりをしました。でも、すぐやみました。よかったです。とにかくいっぱいあそんでいっぱいいたべました。来年がたのしみです。



小四 T・O

昨日は、ステパノまつりでした。WANSLIFE 湘南里親の人に連れてきた犬を、祭前祭で囲んだゲージとトハレシートに、犬をいれました。来た犬の名前は、アトムちゃんと、風花ちゃん、アイラちゃんと、ルナちゃん、とらふ君でした。その前に、オープニングの後に、犬が来ました。ステパノまつりが始まりました。その後、それぞれ別れて、ごはんを食べ

ました。その後、つづきをやりました。14時にステパノまつりが、終わりました。その後、フィナーレをやりました。つかれて、楽しかったです。



小五 H・F

おばけやしきやることになって、じゅんぴがはじまりました。

まずは、メニューです。私がのみのものとして、すすめたのが、ドラキュラが人間の血を吸って作った血のジュースとみせかけたトマトジュース！ドラキュラというなまえがつきました。コーラは、くろねこサイダー。白ねこま女は、ファンタリンゴジュース。きたろうオレンジジュースは、ひのたまなどなど。ほかにも衣装のことは、Aさんとうちあわせして、一緒に衣装を考えたり作ったりしました。祭前祭当日、お店の人になって、おせんべいを作りました。すると、おいに作られたのか、いっぱい来てくれました。琥珀糖もすこしゼリーみたいで、すつごくみんなよろこんでくれました。途中で休憩時間があり、200ステパノ縁を使って、クレープアリスやさとうのたこやきとパンケーキや森の中のお店屋さんのフルーツポンチなどなど



Mさんといろんなところをまわりました。

ステパノまつり当日は、1000人以上の人がまつりに来ました。おぼけきつきにも人がたくさん来てくれました。お客さんのんびりしてくれてうれしくてたまりませんでした。おぼけきつきをやつて、あんなにお客さんがよるこんでくれるんだと思いました。



小六 K・M

今日は、ステパノまつりでした。オープニングが終わったら、パンケーキの生地を作りました。10時に祭り開始です。ぼくとHくんが注文係をしました。交代でパンケーキを作りました。たこ焼きも売れました。行列ができていました。2時にフィナーレがありました。ステパノまつりが終わりました。

【中学校】中学校では、三学年が縦割りとなって活動しました。一学期から準備を始めて、いろいろな企画でお客様をお迎えすることができました。



中一 R・S

九月八日にステパノまつりが開催されました。私はクレープ屋でお仕事をしました。クレープの種類は生地の上にフルーツをのせたフルクレと生地でチョコレートとジャムをつつんだジャムクレでした。生地は本番の前にたくさん苦労して作りました。私たちが200枚がんばって作りました。

そして本番ではたくさんのお客さんがクレープ屋に来て、私たちはクレープを焼くのに時間がかかりました。そして完成したクレープはフルーツの上にかわいくてきれいなお菓子を上にのせたフルクレとチョコレート、イチゴジャムをつつんだジャムクレを作りました。お客さんがたくさん来てくださって、フルクレとジャムクレは完売しました。たくさんのお客さんが来てくれたので感謝しています。



中二 J・K

今日はステパノ祭り当日でした。お客さんがたくさんきていて、びっくりしました。実行委員はとても忙しく、巡回は上(中学校)と下(小学校)を行ったり来たりだったので、大変でした。やってみて、実行委員は本当にやりがいがあった委員会でした。また来年もやってみたいです。



中三 H・O

今日、ステパノ祭りがありました。僕は鉄道コーナーのNゲージ担当でした。Nゲージを走らせる体験をさせるために、走らせ方などを教えました。

小さい子たちなどにはなかなか伝わらなくて大変だったけど、皆が楽しんでくれたので、良かったです。

中三 R・K

九月八日は、ステパノまつりの本番でした。僕は最後のステパノまつりで鉄道コーナーをやりました。中三の教室でホールから運んできた机と教室の机を使ってNゲージやプラレールの線路を作りました。Nゲージは、まるく線路をつないで電車を走らせました。プラレールは、いろいろコースを作つて、電車をたくさん走らせました。上と下に線路を作つて電車がわかるコースを作りました。

お客さんも特に子どもたちがたくさん来てくださって楽しめました。子どもたちが、電車に興味があるなと思いました。

僕も、子どもたちがプラレールに触らないようにプラレールの案内係でした。たくさん来てくださって良かったです。三年間楽しいステパノまつりでした。





今年度から中学校の教頭と中二を担任されている、高橋謙二先生をお訪ねしました。

* * *

―昨年、勤続二十五年を迎えられました。

「ほかの学校に勤めたことはありません。最初に就職したのがステパノです。大学では臨床心理学専攻で、養護施設か教護院で働こうと考えていました。小学校と中高社会科と養護学校の教員免許を持っていて、エリザベス・サンダース・ホームにも来たことがありました。児童養護施設が併設されているステパノで働かないかと大学から直接連絡があったことがきっかけです。」

―当時はまだ通学生はいない頃ですか。

「二、三人くらいで、ほとんどホームの子でした。一学年に五、六人しかいないクラスや、二つの学年を組み合わせて行う複式でのクラスもありました。」

自分は家庭環境がよくなく一冊本が書けるんじゃないかというくらいの人生を歩んできたつもりで、普通の人とは違う経験を強みにして生きてきました。そのような生き方を子どもたちに教えたいと思っていました。ところがホームの子どもたちは、自分とは比べものにならない壮絶な経験をしていると知り、

自分の土台が全部崩れました。二年くらいは毎日が辛くてね。『辞めたい』と思い続けました。そんなとき、『自分のままでやるしかないんじゃない。人なんて、みんなたいして変わらない』と言ってくれた先生がいて、支えられました。辞めようと思えば辞められたのに、沢山の先生方や保護者の方、また子どもたちに助けられ、ここまで続けられました。」

―原動力になったのは。

「結局子どもが好きなんです。大人にはない魅力があつて。大変だなあと思っても、変わっていくのがわかるから勇気づけられます。真剣にかかわってくれる大人が一人でもいれば、ちゃんとした道を歩いていくことができる」と信じています。ここくらい楽しく、成長させてもらえる学校はないですよ。」

―朝一番に学校に來られて鍵を開けるのが日課だそうですね。

「いつも仕事のことが頭にあって。慣れてしまえば苦じやないです。楽しいですね。一つのことをやり遂げたときの達成感を味わうからね。」

―ステパノとは。

「少人数なので、自分と合わない人でもいいところを見つけ、尊重して認め合えることです。正しく生きる力がつきます。社会の縮図ですよ。その勘をつかめたら卒業してからも応用していきます。いろいろなことがない」と成長できないですよ。一人一人が、自分

のこととして考えるのが大事なんだと思います。」

* * *

情熱を持ちながらもクールで、何より先生は心が元気。目先のことにとらわれず、長い目で子どもたちを信じて下さっています。

STEPHEN'S NEWS

【表彰】

- 第 52 回 児童水泳大会
☆25m 自由形 男子 小5 F・K、小6 Y・F、M・Y ☆25m 自由形 女子 小6 M・T、M・T ☆25m 平泳ぎ 男子 小6 S・K
- 第 16 回 平塚市新体操クラブ
選手権大会ジュニア個人競技
フープの部 第 1 位 中2 Y・N
- 中郡中学校総合大会
☆男子低学年 4×100R の部 第 2 位 M・I、H・Y、M・U、S・A ☆男子共通 4×100R の部 第 3 位 R・A、T・K、T・H、S・O
- 平成 30 年度 第 52 回 神奈川県
中学校総合体育大会 第 71 回
神奈川県立中学校卓球大会
第 5 位 中3 K・H

〈離任者の紹介〉

村井信治事務長が退職されました。

【編集集後記】

今、ステパノでは、運動会に向けて心ひとつになるよう頑張って練習しています。(ひ)

代表者 学園長 小川 正夫

発行者 聖ステパノ学園小学校・中学校

ステパノだより編集委員会

〒255-0003 神奈川県中郡大磯町大磯八六八

TEL 0463-611298
FAX 0463-611973

<http://www.stephen-oiso.ed.jp>

二〇一八年十月四日(木)発行 第 225 号